



する。

消火剤 : 噴霧水、泡(耐アルコール)、粉末、二酸化炭素  
四塩化炭素を含む消火剤はホスゲンを発生する可能性があるので、使用してはならない。

#### 漏出時の措置

- (1) 保護具を着用し、風上から作業する。
- (2) 付近の着火源となるものは速やかに取り除く。
- (3) 下水等に入り込まないように注意する。
- (4) 漏れた液は砂などで囲みビニールシート等で覆い、蒸気の発生を抑えながら回収する。
- (5) 関係箇所に通報し、応援を求める。

#### 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い : (1) 皮膚接触を防ぎ、必要に応じ適切な保護具を着用して作業する。  
(2) 取り扱い後は手洗いを十分に行い、作業衣等に付着した場合は着替える。  
(3) 取扱場所では火気、火花、アークを発生する物又は高温点火源を使用しない。  
(4) 酸化剤との接触をさける。
- 保管 : (1) 保管容器は炭酸ガス又は窒素封入の密閉容器を使用する。  
(2) 貯蔵場所では常に整理整頓及び清掃に努め、みだりに不必要な可燃物を放置しないこと。  
(3) 収納した容器を貯蔵するときは地震等で容器が容易に転落、転倒し又は他の落下物により損傷を受けないようにする。

#### 暴露防止措置

管理濃度 : なし  
許容濃度 : 日本産業衛生学会勧告値 (2001 年版)  
時間荷重平均 : 未設定  
ACGIH(2001)勧告値  
時間加重平均(TWA) : 0.1 ppm (0.23 mg/m<sup>3</sup>)(Fe として)

設備対策 : 蒸気の発生源を密閉する設備又は局所排気装置と洗眼設備を設ける。

保護具 : 保護マスク、保護眼鏡、保護衣料、保護手袋

その他の衛生上の予防措置

- (1) 取り扱い後は手洗い、洗眼を十分に行う。
- (2) 健康診断を定期的実施する。
- (3) 安全衛生教育を実施する。

#### 物理 / 化学的性質

外観 : 黄色 ~ 暗赤色な液体  
比重 : 1.44 ~ 1.47(20 )  
沸点 : 103.0  
融点 : -20.0  
蒸気圧 : 4.7 kPa(35.0mmHg)(25 )  
蒸気比重 : 6.74(空気=1)  
溶解性 : 水の不溶  
揮発分 : 100 %  
その他 : 臭気 殆ど無臭、 蒸発速度 1 以上(酢酸ブチル = 1)

#### 危険性情報 (安定性、反応性)

引火点 : -15 以下 (CC)  
発火点 : データなし

- 爆発範囲： データなし  
 反応性： 一般的取扱い、貯蔵の条件では安定。  
 空気、熱、光、四塩化炭素、金属酸化物の粉体及び酸化剤との接触を避ける。  
 自己反応性： 特になし

引火性の液体であり、蒸気は空気よりも重く、温度が高い場所では蒸発したガスが低所に滞留して爆発性混合ガスを作る可能性がある。  
 分解によって、有毒な CO が発生する。

---

#### 有害性情報 <sup>1)</sup>

刺激性：	皮膚	可逆的な微かな刺激性
	眼	データなし
感作性：		データなし
急性毒性：	経口ラット、マウス、ELMETT	LD <sub>50</sub> 40.0～62.1 mg/kg
	経皮ウサギ	LD <sub>50</sub> 240 mg/kg
	ラット、マウス、ELMETT	皮膚からの吸収で神経系と肝臓の病変が増加する影響が現れる。
	吸入ラット、マウス、ELMETT	LC <sub>50</sub> 43.5 mg/m <sup>3</sup>
	ヒト	中枢神経系、呼吸器系、粘膜に強い影響が現れる。
	皮下ウサギ	LD <sub>50</sub> 240 mg/kg
	静注ウサギ	LD <sub>50</sub> 11 mg/kg
亜急性、慢性毒性：		データなし
発がん性：		データなし
変異原性：		データなし
催奇形性及び生殖性：		データなし
代謝・排泄：		データなし

---

#### 環境影響情報

生分解性：	データなし
生態影響：	データなし

---

#### 廃棄上の注意

- (1) 空容器であっても、内容物が残留していることがあるので取扱いには注意する。
- (2) 空の小型容器は栓を固く締め、空容器であることを表示し、引火の危険性のない場所に置く。
- (3) 容器を修理又は廃棄する場合は、水洗又はスチーム洗浄を行い有機物を完全に除去した後に行う。
- (4) 廃棄物などは、そのまま又は易燃性溶剤とともに、少量ずつ焼却炉にて焼却処理するか、又は廃棄物処理免許を持つ処理業者に処理を委託する。
- (5) 焼却処理の場合は、有害ガス(NO<sub>x</sub>, CO<sub>x</sub>等)が発生する恐れがあるので燃焼排ガスの処理対策を講ずる。

---

#### 輸送上の注意

- (1) 車輛等によって運搬する場合、荷送人は運送人に運送注意書を交付するのが望ましい。
- (2) 容器の輸送及び運搬は、常にしっかりと固定した状態で行い、特に瓶及び缶は輸送中に互いに衝突して破損することのないようあらかじめ適当な緩衝物を詰めていく。

---

#### 主な適用法規

##### 消防法

法別表：危険物 第4類 第1石油類 (非水溶性)(指定数量 200L)

危規則 告示別表第 4 : 毒物

労働安全衛生法 :

別表第 1 危険物 (引火性の物)

P R T R 法 : 第 2 種指定化学物質 No.46

---

#### その他

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、通常の手扱いを対象としたものであって、特別な手扱いをする場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。

全ての化学製品には未知の有害性があり得るため、手扱いには細心の注意が必要です。

ご使用各位の責任において、安全な使用条件を設定して下さいようお願い申し上げます。

---

#### 参考文献

- 1) ISP TECHNOLOGIES INC. MATERIAL SAFETY DATA SHEET